

平和の願い 遺族会に学ぶ

松本仏教
和合会 お花まつり本祭で講演会

松本市内の約40カ寺 全久院住職)は7日、
つくる松本仏教和合 同市鎌田1の龍昌寺で
会(会長＝倉科利行・ 「お花まつり本祭」を



開いた。法要や戦没者
慰霊・震災物故者法要
に続いて、松本市遺族
会の平岡武会長(82)

「白板1」の講演があり、関係者や奉賛会
員、地域住民ら約30人
が真剣に耳を傾けた。

戦争体験者の高齢化
が進む中、次世代への
記憶の継承が急務とな
っており、遺族会は国
が進める「平和の語り
部事業」に力を入れて

いる。平岡会長は、終
戦直後の昭和21(19

戦争の記憶を引き
継ぐ活動の大切さ
を語る平岡会長

(左)

46)年に発足し、多
い時は1800人以上
いた市遺族会が昨年は
302人まで減少し、
今年は300人を割り
込む見込みとなってい
ることに触れ「会の活
動も記憶も、次世代に
引き継ぐことが大きな
テーマと力を込めた。

講演の合間には倉科
会長の妻・京子さんの
歌とキーボード、東昌
寺(白板1)の飯島恵
道住職のバイオリンに
よる「里の秋」や「み
かんの花咲く丘」「ふ
るさと」の演奏があり
来場者も一緒に歌っ
た。

倉科会長は「平岡会
長の話を聞き、一人一
人の心の中にある悲し
みを感じた。語り部活
動にも協力していきたく
い」と話していた。

(浅川寛子)